

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜清流高等特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年5月26日(金) 10:00~12:00
- 3 開催場所 岐阜清流高等特別支援学校 会議室
開会前に、Café Seiryuにて1年生喫茶サービスの授業参観を実施
- 4 参加者

会 長	清水 達郎	芥見南自治会連合会 会長
副会長	松本 和久	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
委 員	五十川勝也	芥見東身体障害者福祉協会 会長
	伊藤 知子	株式会社十八楼 女将(欠席)
	井上 友紀	芥見東自治会連合会 会計
	大倉 美江	すまいる工房株式会社 管理者
	後藤 美恵	岐阜清流高等特別支援学校 PTA 会長
	林 武	岐阜県老人福祉施設協議会 副会長
学 校 側	乙津真由美	校長
	三輪 孝司	教頭
	柳原 英紀	事務長
	横田 真	部主事
	北川 百合	教務部長
	黒柳 潔	進路指導主事
	吉田 徹	生徒指導主事
	津田 行代	保健安全部長
	谷藤麻以子	研修支援部長(特別支援教育コーディネーター)
	鎌田 文市	渉外部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校経営計画及び組織編成について

○校訓・学校教育目標

意見1: 地域との関わりでは、Café Seiryu が地域と生徒との交流の場になる。また再開できるとよい。

⇒Café Seiryu については、できる限り早く外部への営業を再開していく。喫茶サービスで、生徒のコミュニケーション能力を育てていきたい。

○学校経営の目標と重点的な取組

意見1: 「働き続ける人」というキャッチフレーズが素晴らしい。就職がゴールではなく、先を見据えることが大事である。

○教育指導の重点

○各分掌の方針と重点

意見1：研修支援部の重点の中で「個別の教育支援計画」の作成についてあった。老人介護にも「ケアプラン」がある。作成が大変で、何か月かに一度見直しをする必要がある。その中で、目標が達成しているか、また今後の課題等について考えていく。作成や見直しは大変だろうと思うが、とても大切なことである。

(2) 教育課程の編成について

意見1：学級数が少なくなっていることについて、今年の入学生はどのくらい定員より少なかったのか。原因はあるのか。

意見2：現在の高校1年生の生徒数、絶対数が少ないのではないかと。

⇒定員は48名だが、1年生は5クラスで37名が在籍している。11名定員を下回った。

少子化で受験者数が少なくなったことも理由に挙げられる。オープンスクールや教育相談、体験入学をすることで、本校の教育について理解した上で受験するようになってきた。

今年度は6月のオープンスクールで、中学1年生から3年生まで、幅広く見学できるように計画している。学校説明の中で、どのような生徒が在籍しているか、どのような企業に就職しているのか等を説明することで、より理解を深めるようにする。

意見3：素晴らしい学校であるということをもっと外部にアピールしてほしい。

(3) 専門コース製品の価格設定について

○工業コース：新製品 ラック2段（6,000円）、ラック3段（8,000円）

○食品コース

○園芸コース

○ビジネス・情報コース：新製品 A4ノート（100円）

○喫茶サービス

○ロジスティクスコース

物価の高騰で、原材料費が上がっている。いくつか少し値上げしている商品がある。

意見1：購入する側は、この価格は嬉しい。物価が高騰しているが、この価格で大丈夫か。

⇒今年度は、この価格で販売していく。

6 会議のまとめ

・学校経営計画及び組織編成について全委員より承認が得られた。

・教育課程の編成について全委員より承認が得られた。

・専門コース製品の価格設定について全委員より承認が得られた。

○卒業後に向け、生徒一人一人に合った進路選択ができることが「働き続ける人」につながっていく。本校は、そのような教育を目指している。そのことを、もっと外部に伝えることで、より本校を理解してもらえるようにしていく。

○教職員の働き方改革を進めることを目標にしていく。働く環境を整えることで、よりよい教育を進めていくことができるようにする。